

2022年度（公財）日本体操協会政策方針

スローガン

「未来を描く、未来へ進む」

(はじめに)

昨年度のスローガンは『順応力と適応力』でした。新型コロナウイルス感染症の蔓延で、人々の生活が大きく崩れ生活様式を変えざるを得ない状況になり、スポーツ界にも大きな影を落としました。その環境のもと、新型コロナウイルスとの共存をいち早く受け入れ、新しい様式に慣れ、適応していくことで、競技活動の継続を模索して参りました。昨夏には、延期された東京オリンピック・パラリンピックが無観客ではありましたが開催され、体操の各競技をはじめ、選手の活躍が世界中の人々の心に勇気と希望の灯を点しました。また北九州での世界体操、新体操の史上初の同時開催、そして渡辺守成 FIG 会長の再選と皆さんの努力が実を結んだ1年でありました。感染症の終息の道筋はまだまだ見えませんが、我々は今後新しい環境の中で日常の生活を送りスポーツの更なる発展を目指します。健康と生活を守り、新しい未来を自らの手で築いて行かなければなりません。そのためには、体操関係者一人ひとりが何としても明るい未来を切り開くことを強烈に思い、お互いが協力して同じ方向にベクトルを合わせて前進すること！そして一人ひとりが体操界を担っているという気持ちで取り組んでいきたいと思えます。

新しい年のスローガンは「**未来を描く、未来へ進む**」として進んで参ります。

現在の体操選手たちの素晴らしい活躍は過去の努力の結果です。そして未来はこれからの努力で築かれます。

誰も経験したことのなかった環境の中でお互いが励まし合い、創意工夫をし、努力を重ねて、順応してきた経験を元に、体操の未来図を描き、それに向けて皆さんと進んで行きたいと思えます。最善の方策を導き、行動し、未来の姿をはっきりと思いの中に浮かべて、それに近づけるように誰にも負けない努力をして目標達成を果たしていきましょう。

(2021年の成績と反省)

男子体操においては、東京オリンピックでは、個人総合で橋本大輝選手が他国の選手との熾烈な争いの中、見事優勝し、種目別鉄棒でも金メダルを獲得しました。また、あん馬では萱和磨選手が見事銅メダルを獲得して体操ファンの期待に応えてくれました。団体総合では、ロシアオリンピック委員会との史上稀にみる大熱戦を繰り広げ、惜しくも0.103の僅差で銀メダルとなり連覇の目標達成出来ませんでした。熱戦を演じてくれました。また10月北九州で開催された世界選手権大会では、5つの銀メダルを獲得すること出来ました。ベテランの力と若手の成長が融合し、新しい体操界のスタートになりました。引き続きレベルの高い戦いを期待します。

女子体操においては、東京オリンピックのゆかで村上茉愛選手が史上初個人種目でのメダルを獲得しました。また、10月の世界選手権では、ゆかで村上選手が金メダル、平均台では芦川うらら選手が金メダル、村上選手が銅メダルを獲得しました。ただし、オリンピック団体では目標としていたメダル獲得には届きませんでした。若手の活躍もあり、今後につながる選手も出てきましたが、さらなる競技力の底上げを期待します。

新体操においては、コロナ禍でロシアでの合宿も出来ず、何とか国内での調整と演技会などで演技力、集中力の強化に取り組んでオリンピックに臨みましたが、前回同様8位入賞で終わりました。最終的にはピークをうまく持っていくことが出来なかったことにつきます。しかしその後の世界選手権大会では本来の力を十分発揮し、団体種目別で2種目での銅メダルを獲得しました。オリンピックから短い期間で難しい調整でしたが全員力を出し切ったと思います。今後は新しい若いチームの活躍を期待します。

男子トランポリンは、オリンピックにおいて念願のメダルには届かず7位入賞で終わりました。世界との差が縮めることが出来ず残念な結果になりましたが、その後の世界選手権大会では、初出場の西岡隆成選手が7大会ぶりに個人での銀メダルを獲得し優勝争いに加わり、団体でも3大会ぶりのメダルを獲得し、若い選手の活躍により好成績を収めました。若手の成長に目を見張るものがあり、練習から緊張感を持ち、常に上位争いが出来る選手層作りを期待します。

女子トランポリンは、オリンピック史上最高の5位入賞を果たしました。2019年の世界選手権での活躍からトランポリン初のメダルが期待されましたが、残念ながら本番で持てる力を発揮することが出来ずメダル獲得はなりませんでした。その後の世界選手権では、挽回するかのようになり、団体で2大会連続での金メダルを獲得し、シンクロナイズドでも4大会連続のメダルを獲得し、好成績を残しました。今後は、更に若い世代でのレベル強化が課題であり、日々精進して女子全体のレベル向上を期待します。

－世界選手権での目標－

各種別世界選手権の目標は次のとおりです。

男子体操	団体総合をはじめ、複数の金メダル獲得、団体五輪出場権獲得
女子体操	団体入賞、個人総合入賞、1つ以上のメダル獲得
新体操	団体種目別メダル獲得、個人8位入賞
男子トランポリン	個人、シンクロナイズド競技でのメダル獲得
女子トランポリン	個人、シンクロナイズド競技でのメダル獲得

好成績を上げるようレベルアップし、未来を描き、未来に進んで全力で戦って参ります。

（一般体操）

2021年度、一般体操委員会は指導者養成に注力しました。2006年から実施している「一般体操指導員」の養成に加え、高齢者の健康づくりを支援する人材の育成として「高齢者体操指導員」養成プログラムをスタートさせました。また、日本体操祭では、新型コロナウイルス感染防止に対応した動画発表を新設し、さらにテレビ局と提携して事業を展開し、新規の参加チームを呼び込むことができました。

2022年度の方針として、次の事項を掲げます。

第一に、「高齢者体操指導員」養成プログラムの更なる拡大を図ります。新型コロナウイルス感染防止に対応したオンライン講習の方法をとることで、全国の体操指導者が受講しやすいにします。そこで、全ての都道府県体操関係団体に開催案内を発信します。

第二に、日本体操祭の参加者数の拡大を目指します。新規参加チームの獲得はもとより、継続して参加してもらえよう工夫を凝らします。日本体操祭が多世代交流のイベントとして、また高齢者の社会参加の機会として発展することを長期的な目標とします。

第三に、本会公認体操プログラム「TheTaiso（ザ・タイソウ）」の普及に努めます。体操ファミリーのイベントや講習会、都道府県における体操祭などにおいても積極的に宣伝と実施を推し進めます。

この他にも、都道府県における体操祭の支援や学校教員を対象とした講習会の企画など、一般体操の普及に向けて各種活動に取り組んで参ります。

（アクロ体操）

2021年度は、普及活動、国際大会参加など、ほぼすべての活動を自粛せざる得ない一年でした。しかし、各クラブチームの協力により、その限られた活動の中でも、問い合わせや見学希望なども増え、選手登録数も、徐々にではありますが、着実に増加してきております。

国内の現アクロ体操選手は、アクロ体操の基礎である倒立(ハンドバランス)の技術に長けており、海外の大会では好成績を収め、世界で認知されつつあります。現在、世界では、新型コロナウイルスの影響によりオンライン大会を模索するといった背景もあり、ハンドバランスの世界大会が開催される機会が増加しております。よって、これらの機会を最大限に利用し、広報活動とともに選手人口の増加に繋げられるようさらに努めて参ります。

さらに、これまでは、既存の本会所属クラブ等での、小・中規模なアクロ体操教室の増加を期待し様々な普及活動を模索して参りましたが、思うような結果が出ていないのが現状となっています。そこで、地域に埋もれている本会以外のスポーツ系クラブやダンス教室なども視野に入れ、普及活動に力を入れていきたいと思っております。また、昨年度同様、日本エアロビック連盟との協力体制の構築も模索していこうと考えております。また、一昨年度と同様に、「ストレッチ体操の質と量」主題の講習会も、各開催地で好評を得ております。今後も体操界の発展に寄与するものと確信し、継続させて頂こうと考えております。

2022年度は上記の案件を踏まえ、アクロ体操委員会の活動拡大に努力致します。

(男子新体操)

2022年度の男子新体操委員会の取り組みとしては、まず第一に国内の普及活動の推進、第二に日本の男子新体操に興味を示す国に対してのサポートを行うことの二点を中心に活動していくことを方針とします。

国内普及としては未普及県への活動を第一に考え、各ブロック、県単位に話し合いを重ね、その地域にあった具体的な普及方法の検討を行います。また、昨年度に引き続き、若手指導者育成にも力を入れ、学校体育だけではなくクラブスポーツ現場での普及にも力を注いでいきます。

現在、海外から日本の男子新体操に興味をもち、取り組みたいと複数の国から連絡を受けています。それらの要望に応えるためにも、ルールの翻訳を早急に行い、ルールに準じた形で交流会等を設け、本会の男子新体操を広く発信していくことが重要と考えています。そのため、2022年度にはオンラインを活用した海外との交流も視野に入れ、委員会内で十分協議し協力態勢の構築をしていきます。

以上の二点を中心に据え、普及活動を行うことを政策方針として活動を行います。

(パルクール)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大会が軒並み中止、延期となる中、唯一の大会として「第1回JGAパルクール・オンライン・コンペティション」を開催(3月)した2020年度に続き、2021年度も厳しい環境下にて「第2回JGAパルクール・オンライン・コンペティション」(7月)、そして2年ぶりのリアル大会として「第2回パルクール日本選手権」(12月)を開催することが出来ました。これらの活動をベースに、2022年度にはそれぞれの大会の開催を目指すと共に、競技の普及・浸透に伴う促進事項を進めていきたいと考えます。

まずは審判の育成、続いてコーチの育成、そして大会の認定制度、これら競技普及の基本となる事項についての方法を企画・構築・実施していくことで、パルクールの愛好者を増やし、更なる普及を目指していきます。

上記の取り組みが整理出来た段階で各都道府県協会・連盟に活動モデルを提供していきたいと考えています。今後共、国内パルクールの競技・普及に全力で取り組んで参ります。

(国際関係)

第一に渡辺FIG会長の再選にともない、各国と共に体操の発展を目指すグローバルな組織づくりを目指します。会長のサポートがしっかりできる体制づくりと同時に本会のミッションとして体操の国際的な普及を検討します。そのため、国際委員会、FIG対策プロジェクトチーム、海外戦略室、NTC担当や事務局国際担当との情報共有を図り、一丸となって国際関係事業の推進を図ります。

第二に国際交流支援を図ります。発展途上国へのコーチの派遣、コーチ育成研修や器具の提供事業、オリンピックソリダリティー人物交流支援事業の継続、Sports For Tomorrow事業の受け入れについてJOCや外務省と連携して推進を図ります。

第三に国際人の育成を図ります。JOCスポーツ国際展開基盤形成事業やJOC国際人養成アカデミー(JOC International Sports Leader Academy/JISLA)への参加を検討します。また、FIGやAGUでの国際的な折衝において活躍できる理事や、国際連携・貢献を実践できる技術委員の人材を育成するためJGA独自の人材育成プログラムを策定し、コミュニケーション能力(英語力・プレゼン力)の育成や必要な資格を取得し、国際人育成を推進します。本年予定のAGU選挙では、理事及び全種別の技術委員の当選を目標に選挙対策を図ります。

本年度国際関係では、グローバルな組織づくり、国際交流支援事業、国際人の育成およびAGU選挙対策を推進して取り組んで参ります。

(コーチ育成委員会)

2021年9月、予定より1年遅れではありましたが、何とか東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は終了できました。この東京大会を契機にこれまでスポーツ界発展のために築き上げられた様々な知識や経験を価値ある財産、遺産 (legacy) として継承し、次の時代へと進化・発展させることが、まさにスポーツの祭典、スポーツの文化、スポーツを生業とする者の役目であると考えます。

スポーツの発展は、スポーツ科学に支えられています。その発展は日進月歩、選手の競技力向上に大きな成果をもたらしています。これに伴い、選手を育成・サポートするコーチやトレーナーも常に科学的な知識を取り入れた客観的な指導体系、指導法が求められるようになってきました。旧態依然の威圧的、暴力的な指導から脱却し、常に科学的で、効率的で、合理的で、安全な指導を目指すことこそが選手との有意義なコミュニケーションを育み、信頼関係を構築する大前提となることを一番に理解すべきです。

世界が目指す体操ニッポンの指導者として、国際水準に到達すべく素養の育成を推進して参ります。

1. JOC、JSPO公認資格を持つ全国指導者の実態調査と資格管理
2. 国際大会を目指す指導者への公認資格 (FIGアカデミー、JSPO公認コーチ4) の所持促進と支援
3. 指導者を目指す後進への公認資格 (JSPO公認コーチ3) の所持促進と支援
4. 全日本選手権大会・NHK杯に出場する指導スタッフの資格管理
※2024年度以降、本格的始動
5. 義務研修の対象拡大 (全国各地での講習会・研修会の開催ほか強化合宿の活用など)
6. その他関連事項の検討 (資格と登録の連動、JSPO公認コーチ1・2及びスタートコーチの活用など)

(地域委員会)

新型コロナウイルスの影響で、各地域での選手育成や大会運営等に関しましては、様々な感染対策など大変なご苦労があったのではないかと思います。しかし、このような状況下において、東京オリンピックおよび北九州での世界選手権が無事に開催されました。各大会運営におかれましては、加盟団体、都道府県・各ブロック体操協会の皆様をはじめとする多くの関係者のご尽力のおかげであります。

地域委員会は、定期的に全国ブロック代表者との合同会議を開催しています。この会議は、各地域、加盟団体等からの要望や問題点について積極的な意見交換を行い、地域の声を中央執行部に届ける役割を担うため、本会として最も重要な会議であると考えております。今後も、全国の体操に関わる皆様の貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。

また、地域の人材育成を目的とした「ビジネススクール」の開催、地域のジュニア選手の育成を目的とした「全国ブロック選抜U-12体操競技大会」の開催も引き続き本会が担当させていただきます。地域で開催される全国大会の開催地については、各ブロック、都道府県、加盟団体と協議しながら5年先までの開催地を調整していきます。障がい者部会におきましては、障がい者の体操普及の取り組みとして、地域での障がい者向け体操クラブの事業所設立に対するアドバイス等を行い、一定の成果が得られてきました。今後は、さらに普及を進めながら「障がい者体操大会」の開催に向けた準備を進めていきたいと思っております。

(組織ガバナンス・コンプライアンス・指導における暴力、セクハラへの対策強化)

2021年は、延期された東京オリンピックが開催されましたが、新型コロナウイルスの影響はまだまだ収束しておらず、世界体操開催時には入国制限や隔離期間などで相当苦労いたしました。今年度も引き続き、この状況と共存して、生活様式を変え順応、適応して行かなければなりません。新たな施策を手探りながら推進して参ります。引き続き、昨年立ち上げた危機管理対策室にて対策を講じて対応して参ります。

一方、スポーツ団体がガバナンスコードでの審査を受けております。引き続き組織改革に取り組み、以前から受けている提言事項やガバナンス、コンプライアンスの指導から早期に対応したいと思っております。

本会では、昨年度同様、継続して「指導における暴力、パワハラ、セクハラ撲滅運動」に取り組みます。コンプライアンス委員会の指示による地域での早期対処する部署の設置と指導現場での適切な指導教育が大変重要となります。未然に防ぐ通報システム作りを地域から徹底が急務です。各都道府県協会・連盟内での通報窓口の設置を再度お願い申し上げます。

コロナ禍で、地方団体としても多くのことに配慮しながらの取り組みが続くと存じますが、本会と関係各所連携協力し、厳しい姿勢をもって取り組み続けて参りましょう。

(普及改革プロジェクト)

昨年度立ち上げた普及改革プロジェクトですが、問題点の整理に各部署で取り掛かりました。目的である本会登録人口を増やす「体操の普及」については、登録問題での整理とシステムの変更を考えて検討に入っております。引き続き、これまでの取り組みを継続するだけでは乗り切れない問題点を整理して外部の専門家などを交えて「体操普及」の検討を重ねて、ひとつひとつ現実にあったアイデアを抽出して熟成して「体操の魅力を具現化／すべてのスポーツの基礎である体操の浸透化／財政体制（スポンサー頼み）の改善／体操を通じた日本スポーツ界の発展／体操愛好者の増加」を目的として検討を重ねて参ります。

2023年度の実現化に向けての議論を進めます。種別、年齢、性別、地域を超えた日本体操界一丸となった取り組みが必要ですのでさらなる協力をお願いします。

(むすび)

新しい生活環境に徐々に対応して来ていると思いますが、まだまだ先が見えません。しかし、この環境の中でも、工夫して出来ることから実践していくことが苦境に打ち勝つ手段であると思います。すべての置かれている立場で、環境の整備と協力体制の構築をしていくことで、暗くなる気持ちを前向きにし、環境が良くなるイメージを常に持って、また体操の新たな可能性を探って進んで行きたいと存じます。

選手の活躍と成功は我々の願いですが、それ以上に個々の行動も非常に大切になります。自らの身体を守り、家族、選手、関係者、そして世界中の人々も守るために力を結集して、体操ニッポンを支えていきたいと存じます。

以上、2022年度公益財団法人日本体操協会政策方針を発表いたしました。皆さん、引き続き、苦境を乗り越え、「未来を描く、未来へ進む」のスローガンで力を合わせて頑張りましょう。